

第8章 調査、予測及び評価の手法の概要

1. 人の健康の保護及び生活環境の保全、並びに環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素

表 8-1-1 環境影響の総合的な評価

環境要素	影響要因	調査項目	調査期間	調査方法	調査地域	予測・評価項目	予測方法	予測地域	予測地点	予測時期	評価方法						
大気質	工事の建設機械の稼働	【大気質の状況】 粉じん（降下ばいじん）	【大気質の状況】 春季、夏季、秋季の積雪期を除く 30日間	【大気質の状況】 ダストジャーによる捕集法	【大気質の状況】 事業実施区域 <table border="1" data-bbox="1003 499 1359 562"> <tr><td>調査地点</td></tr> <tr><td>事業実施区域</td></tr> </table>	調査地点	事業実施区域	建設機械の稼働に伴う大気質  (粉じん [降下ばいじん] の影響の程度)	事例の引用または解析による手法	影響範囲内において住居等が存在する、あるいは将来の立地が見込まれる地域	敷地境界地点	工事の実施による影響が最大になる時期	① 環境影響の回避、低減に係る評価 事業者の実行可能な範囲内で、できる限り回避又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正に行われているかどうかを評価する方法  ② 環境の保全に関する施策との整合性に係る評価 スパイクタイヤ粉じんの指標を参考にした値との整合について評価する方法 <table border="1" data-bbox="2377 743 2783 814"> <tr><th>項目</th><th>評価指標</th></tr> <tr><td>降下ばいじん</td><td>10t/km<sup>2</sup>/月以下</td></tr> </table>	項目	評価指標	降下ばいじん	10t/km <sup>2</sup> /月以下
		調査地点															
	事業実施区域																
	項目	評価指標															
降下ばいじん	10t/km <sup>2</sup> /月以下																
【地上気象】 風向、風速	【地上気象】 1年間	【地上気象】 既存資料調査	【地上気象】 事業実施区域及びその周辺で、気象条件が類似する地域 <table border="1" data-bbox="1003 800 1359 871"> <tr><td>調査地点</td></tr> <tr><td>山口気象観測所</td></tr> </table> ※事業実施区域から約950m	調査地点	山口気象観測所	工事車両の走行に伴う大気質  (粉じん [降下ばいじん] の影響の程度)	事例の引用または解析による手法	影響範囲内において住居等が存在する、あるいは将来の立地が見込まれる地域	敷地境界地点	工事の実施による影響が最大になる時期	① 環境影響の回避、低減に係る評価 事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正に行われるかどうかを評価する方法  ② 環境の保全に関する施策との整合性に係る評価 スパイクタイヤ粉じんの指標を参考にした値との整合について評価する方法 <table border="1" data-bbox="2377 1234 2783 1306"> <tr><th>項目</th><th>評価指標</th></tr> <tr><td>降下ばいじん</td><td>10t/km<sup>2</sup>/月以下</td></tr> </table>	項目	評価指標	降下ばいじん	10t/km <sup>2</sup> /月以下		
調査地点																	
山口気象観測所																	
項目	評価指標																
降下ばいじん	10t/km <sup>2</sup> /月以下																
資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	【大気質の状況】 建設機械の稼働に同じ	【大気質の状況】 建設機械の稼働に同じ	【大気質の状況】 建設機械の稼働に同じ	【大気質の状況】 建設機械の稼働に同じ	工事車両の走行に伴う大気質  (粉じん [降下ばいじん] の影響の程度)	事例の引用または解析による手法	影響範囲内において住居等が存在する、あるいは将来の立地が見込まれる地域	敷地境界地点	工事の実施による影響が最大になる時期	① 環境影響の回避、低減に係る評価 事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正に行われるかどうかを評価する方法  ② 環境の保全に関する施策との整合性に係る評価 スパイクタイヤ粉じんの指標を参考にした値との整合について評価する方法 <table border="1" data-bbox="2377 1234 2783 1306"> <tr><th>項目</th><th>評価指標</th></tr> <tr><td>降下ばいじん</td><td>10t/km<sup>2</sup>/月以下</td></tr> </table>	項目	評価指標	降下ばいじん	10t/km <sup>2</sup> /月以下			
	項目	評価指標															
降下ばいじん	10t/km <sup>2</sup> /月以下																
【地上気象】 建設機械の稼働に同じ	【地上気象】 建設機械の稼働に同じ	【地上気象】 建設機械の稼働に同じ	【地上気象】 建設機械の稼働に同じ	工事車両の走行に伴う大気質  (粉じん [降下ばいじん] の影響の程度)	事例の引用または解析による手法	影響範囲内において住居等が存在する、あるいは将来の立地が見込まれる地域	敷地境界地点	工事の実施による影響が最大になる時期	① 環境影響の回避、低減に係る評価 事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正に行われるかどうかを評価する方法  ② 環境の保全に関する施策との整合性に係る評価 スパイクタイヤ粉じんの指標を参考にした値との整合について評価する方法 <table border="1" data-bbox="2377 1234 2783 1306"> <tr><th>項目</th><th>評価指標</th></tr> <tr><td>降下ばいじん</td><td>10t/km<sup>2</sup>/月以下</td></tr> </table>	項目	評価指標	降下ばいじん	10t/km <sup>2</sup> /月以下				
項目	評価指標																
降下ばいじん	10t/km <sup>2</sup> /月以下																

表 8-1-2 環境影響の総合的な評価

環境要素	影響要因	調査項目	調査期間	調査方法	調査地域	予測・評価項目	予測方法	予測地域	予測地点	予測時期	評価方法																						
大気質	土地又は施設の稼働(排出ガス)及び供用	【大気質の状況】 二酸化硫黄、窒素酸化物(二酸化窒素)、浮遊粒子状物質、有害物質(ダイオキシン類、塩化水素、水銀)	【大気質の状況】 四季各1週間	【大気質の状況】 「大気の汚染に係る環境基準について」(S48、環告第25号)、 「二酸化窒素に係る環境基準について」(S53、環告第38号)、 「ダイオキシン類に係る大気環境調査マニュアル」(H20/3、環境省)、 「大気汚染防止法施行規則」(S46、厚生省・通産省第1号)第5条に基づく別表第3備考1、「有害大気汚染物質測定方法マニュアル」(令和5年、環境省)に規定する方法	【大気質の状況】 事業実施区域から約4kmの範囲  調査地点 山口団地・山口公園	【長期濃度】 施設供用時における煙突の排出ガスに伴う大気質濃度 ・窒素酸化物 [二酸化窒素] ・二酸化硫黄 ・浮遊粒子状物質 ・有害物質 [ダイオキシン類及び水銀]の影響の程度  【短期濃度】 施設供用時における煙突排出ガスに伴う大気質濃度 ・窒素酸化物 [二酸化窒素] ・二酸化硫黄 ・浮遊粒子状物質 ・有害物質 [塩化水素]の影響の程度	【長期濃度】 「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」(H18/9、環境省)に基づく大気拡散式(ブルーム式及びパフ式)  【短期濃度】 「大気拡散式(ブルーム式パフ式)」を用いた定量的な方法 気象条件は以下のとおり ・大気安定度不安定時の最大濃度 ・ダウンウォッシュ・ダウンドラフト時の最大濃度	調査地域と同じ地域	半径4km程度の平面的な予測を実施し、煙突排出ガスの拡散による影響が把握できる地点(最大着地濃度地点及び保全対象地点)	供用開始後事業活動が定常状態に達した時期 なお、必要に応じて、新焼却炉試運転期間中の現焼却炉稼働による累積的影響についても考慮	①環境影響の回避、低減に係る評価 現況と予測結果の対比を行い、実行可能な範囲内で回避又は低減され、必要に応じその他の環境の保全についての配慮が適正に行われるかどうかを評価する方法  ②環境の保全に関する施策との整合性に係る評価  【長期濃度】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価指標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化硫黄</td> <td>1日平均値の0.04ppm以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化窒素</td> <td>1日平均値の0.06ppm以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質</td> <td>1日平均値の0.10mg/m<sup>3</sup>以下</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類</td> <td>1年平均値の0.6pg-TEQ/m<sup>3</sup>以下</td> </tr> <tr> <td>水銀</td> <td>年平均値40ngHg/m<sup>3</sup>以下</td> </tr> </tbody> </table> 【短期濃度】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価指標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二酸化硫黄</td> <td>1時間値の0.1ppm以下</td> </tr> <tr> <td>二酸化窒素</td> <td>1時間値の0.1ppm以下</td> </tr> <tr> <td>浮遊粒子状物質</td> <td>1時間値の0.20mg/m<sup>3</sup>以下</td> </tr> <tr> <td>塩化水素</td> <td>1時間値の0.02ppm以下</td> </tr> </tbody> </table>	項目	評価指標	二酸化硫黄	1日平均値の0.04ppm以下	二酸化窒素	1日平均値の0.06ppm以下	浮遊粒子状物質	1日平均値の0.10mg/m <sup>3</sup> 以下	ダイオキシン類	1年平均値の0.6pg-TEQ/m <sup>3</sup> 以下	水銀	年平均値40ngHg/m <sup>3</sup> 以下	項目	評価指標	二酸化硫黄	1時間値の0.1ppm以下	二酸化窒素	1時間値の0.1ppm以下	浮遊粒子状物質	1時間値の0.20mg/m <sup>3</sup> 以下	塩化水素	1時間値の0.02ppm以下
		項目	評価指標																														
二酸化硫黄	1日平均値の0.04ppm以下																																
二酸化窒素	1日平均値の0.06ppm以下																																
浮遊粒子状物質	1日平均値の0.10mg/m <sup>3</sup> 以下																																
ダイオキシン類	1年平均値の0.6pg-TEQ/m <sup>3</sup> 以下																																
水銀	年平均値40ngHg/m <sup>3</sup> 以下																																
項目	評価指標																																
二酸化硫黄	1時間値の0.1ppm以下																																
二酸化窒素	1時間値の0.1ppm以下																																
浮遊粒子状物質	1時間値の0.20mg/m <sup>3</sup> 以下																																
塩化水素	1時間値の0.02ppm以下																																
		【地上気象の状況】 風向、風速、日射量、放射収支量または雲量	【地上気象の状況】 1年間	【地上気象の状況】 既存資料調査	【地上気象の状況】 事業実施区域及びその周辺で、気象条件が類似する地域  調査地点 山口気象観測所(風向・風速) 札幌管区気象台(日射量、雲量) ※山口気象観測所は事業実施区域から約950m、札幌管区気象台は約13.5km。																												

表 8-1-3 環境影響の総合的な評価

環境要素	影響要因	調査項目	調査期間	調査方法	調査地域	予測・評価項目	予測方法	予測地域	予測地点	予測時期	評価方法
騒音	工事の建設機械の稼働	【騒音の状況】 時間率騒音レベル(Lx)	【騒音の状況】 年1回(24時間)	【騒音の状況】 騒音規制法に基づく「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」に記載の方法に準拠	【騒音の状況】 敷地境界から200mの範囲  調査地点 事業実施区域敷地境界(南東側) 事業実施区域敷地境界(南西側)	建設機械の稼働に伴う騒音(騒音レベル)の影響の程度	工事区域内に配置する建設機械(又はユニット)の騒音パワーレベルをもとに騒音の距離減衰式により騒音レベルを予測する定量的な方法	調査地域と同じ	事業実施区域敷地境界における騒音が最大となる地点	工事の実施による影響が最大になる時期	①環境影響の回避、低減に係る評価 現況と予測結果の対比を行い、実行可能な範囲内で回避又は低減され、必要に応じその他の環境の保全についての配慮が適正に行われるかどうかを評価する方法  ②環境の保全に関する施策との整合性に係る評価  項目   評価指標 時間率騒音レベル(Lx)   85dB以下
	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	【騒音の状況】 等価騒音レベル(L <sub>Aeq</sub> )  【沿道の状況】 (1)交通量 方向別、時間別及び車種別(大型車、小型車の2車種分類)交通量 (2)走行速度 車両速度 (3)道路構造等 道路の断面構造、車線数、幅員及び沿道の状況 (4)地表面の種類	【騒音の状況、沿道の状況(交通量、走行速度)】 年1回(24時間)  【沿道の状況(道路構造等、地表面の種類)】 騒音の状況、沿道の状況(交通量、走行速度)の測定時	【騒音の状況】 測定方法は、「騒音に係る環境基準について」(H10、環告)に記載の方法に準拠  【沿道の状況】 目視による測定速度はスピードガンまたは距離と走行時間から算出 道路構造等、地表面の種類は現地で測定及び確認	【騒音の状況、沿道の状況】 対象道路の道路端から200mの範囲  調査地点 一般国道337号(西行き・曙12条) 一般国道337号(東行き・札幌あすかぜ高校) 前田新川線(北行き・手稲高校)	工事車両の走行に伴う騒音(騒音レベル)の影響の程度	自動車騒音に係る予測モデル(ASJ-RTN-Model 2023)により騒音レベルを予測する定量的な方法	調査地域と同じ	工事車両の主要走行経路となる既存道路の代表的な断面における敷地の境界線上(3地点)	工事の実施による影響が最大になる時期	①環境影響の回避、低減に係る評価 建設機械の稼働に同じ  ②環境の保全に関する施策との整合性に係る評価  項目   評価指標 等価騒音レベル(L <sub>Aeq</sub> )   【近接空間】 昼間70dB以下 夜間65dB以下 【非近接空間】 A区域 昼間60dB以下 夜間55dB以下 B・C区域等 昼間65dB以下 夜間60dB以下
	土地又は施設の稼働(機械等の稼働)	【騒音の状況】 等価騒音レベル(L <sub>Aeq</sub> ) 時間率騒音レベル(Lx)	【騒音の状況】 年1回 なお、現焼却炉との累積的影響を把握するため、施設停止時の測定が可能な場合は追加	【騒音の状況】 「騒音に係る環境基準について」(H10、環告)に記載の方法に準拠	【騒音の状況】 敷地境界から200mの範囲  調査地点 事業実施区域敷地境界(南東側) 事業実施区域敷地境界(南西側)	施設稼働に伴う騒音(騒音レベル)の影響の程度	騒音の距離減衰式により騒音レベルを予測する定量的な方法	調査地域と同じ	事業実施区域敷地境界における騒音が最大となる地点及び調査地域全体に対し平面的に予測	供用開始後事業活動が定常状態に達した時期 なお、必要に応じ、新焼却炉試運転期間中の現焼却炉稼働による累積的影響についても考慮	①環境影響の回避、低減に係る評価 工事の実施に同じ  ②環境の保全に関する施策との整合性に係る評価  項目   評価地点   評価指標 時間率騒音レベル(Lx)   事業実施区域敷地境界   昼間65dB以下 朝・夕55dB以下 夜間50dB以下

表 8-1-4 環境影響の総合的な評価

環境要素	影響要因	調査項目	調査期間	調査方法	調査地域	予測・評価項目	予測方法	予測地域	予測地点	予測時期	評価方法										
振動	工事の 実施	建設機 械の稼 働	【地盤の状況】 地盤種別	【地盤の状況】 地盤の状況を適切 に把握できる時期	【地盤の状況】 既存資料調査及び 現地調査	【地盤の状況】 敷地境界から200mの範囲	建設機械の稼働 に伴う振動(振動 レベル)の影響の 程度	振動の距離減衰 式により振動レ ベルを予測する 定量的な方法	調査地域と同じ	事業実施区域敷 地境界における 振動が最大とな る地点	工事の実施によ る影響が最大に なる時期	①環境影響の回避、低減に係る評価現況 と予測結果の対比を行い、実行可能な範囲 内で回避又は低減され、必要に応じその 他の環境の保全についての配慮が適正に行わ れるかどうかを評価する方法  ②環境の保全に関する施策との整合性に 係る評価									
						<table border="1"> <tr><th>調査地点</th></tr> <tr><td>事業実施区域敷地境界（南東側）</td></tr> <tr><td>事業実施区域敷地境界（南西側）</td></tr> </table>	調査地点	事業実施区域敷地境界（南東側）	事業実施区域敷地境界（南西側）						<table border="1"> <tr><th>項目</th><th>評価指標</th></tr> <tr><td>時間率振動 レベル(Lx)</td><td>75dB以下</td></tr> </table>	項目	評価指標	時間率振動 レベル(Lx)	75dB以下		
	調査地点																				
事業実施区域敷地境界（南東側）																					
事業実施区域敷地境界（南西側）																					
項目	評価指標																				
時間率振動 レベル(Lx)	75dB以下																				
	資材及 び機械 の運搬 に用い る車両 の運行	【振動の状況】 時間率振動レベル (Lx) 交通量  【地盤の状況】 地盤種別	【振動の状況】 年1回(24時間)	【振動の状況】 時間率振動レベル (Lx)： 「振動規制法施行 規則」(S51 総理 府令)に記載の方法 交通量：目視によ る測定  【地盤の状況】 既存資料調査及び 現地調査	【振動の状況、地盤の状況】 対象道路の道路端から200mの範囲	工事車両の走行 に伴う振動レベ ルの影響の程度	振動に係る予測 モデル(旧建設省 土木研究所提案 式)により振動レ ベルを予測する 定量的な方法	調査地域と同じ	工事車両の主要 走行経路となる 既存道路の代表 的な断面におけ る敷地の境界線 上(3地点)	工事の実施によ る影響が最大に なる時期	①環境影響の回避、低減に係る評価工事 の実施に同じ  ②環境の保全に関する施策との整合性に 係る評価										
					<table border="1"> <tr><th>調査地点</th></tr> <tr><td>一般国道337号 (西行き・曙12条)</td></tr> <tr><td>一般国道337号 (東行き・札幌あすかぜ高校)</td></tr> <tr><td>前田新川線 (北行き・手稲高校)</td></tr> </table>	調査地点	一般国道337号 (西行き・曙12条)	一般国道337号 (東行き・札幌あすかぜ高校)	前田新川線 (北行き・手稲高校)							<table border="1"> <tr><th>項目</th><th>評価指標</th></tr> <tr><td>時間率振動 レベル(Lx)</td><td>昼間65dB以下 夜間60dB以下</td></tr> </table>	項目	評価指標	時間率振動 レベル(Lx)	昼間65dB以下 夜間60dB以下	
調査地点																					
一般国道337号 (西行き・曙12条)																					
一般国道337号 (東行き・札幌あすかぜ高校)																					
前田新川線 (北行き・手稲高校)																					
項目	評価指標																				
時間率振動 レベル(Lx)	昼間65dB以下 夜間60dB以下																				
土地又 は工作 物の存 在及び 供用	施設の 稼働	【振動の状況】 時間率振動レベル (Lx)	【振動の状況】 年1回 なお、現施設との 累積的影響を把握 するため、施設停 止時の測定が可能 な場合は追加	【振動の状況】 「特定工場等にお いて発生する振動 の規制に関する基 準」(H27、環告) に記載の方法	【振動の状況】 敷地境界から200mの範囲	施設稼働に伴う 振動(振動レベル) の影響の程度	振動の距離減衰 式により振動レ ベルを予測する 定量的な方法	調査地域と同じ	事業実施区域敷 地境界における 振動が最大とな る地点	供用開始後事業 活動が定常状態 に達した時期 なお、必要に応 じて、新焼却炉 試運転期間中の 現焼却炉稼働に よる累積的影響 についても考慮	①環境影響の回避、低減に係る評価工事の 実施に同じ  ②環境の保全に関する施策との整合性に 係る評価										
					<table border="1"> <tr><th>調査地点</th></tr> <tr><td>事業実施区域敷地境界（南東側）</td></tr> <tr><td>事業実施区域敷地境界（南西側）</td></tr> </table>	調査地点	事業実施区域敷地境界（南東側）	事業実施区域敷地境界（南西側）							<table border="1"> <tr><th>項目</th><th>評価地点</th><th>評価指標</th></tr> <tr><td>時間率振動 レベル(Lx)</td><td>事業実施 区域敷地 境界</td><td>昼間60dB以下 夜間55dB以下</td></tr> </table>	項目	評価地点	評価指標	時間率振動 レベル(Lx)	事業実施 区域敷地 境界	昼間60dB以下 夜間55dB以下
調査地点																					
事業実施区域敷地境界（南東側）																					
事業実施区域敷地境界（南西側）																					
項目	評価地点	評価指標																			
時間率振動 レベル(Lx)	事業実施 区域敷地 境界	昼間60dB以下 夜間55dB以下																			
悪 臭	土地又 は工作 物の存 在及び 供用	施設の 稼働 (排出 ガス)	【悪臭の状況】 (煙突等の気体排 出口) ガス温度・流量 臭気指数  (周辺地域) 臭気指数	【悪臭の状況】 年1回(夏季) 既存資料調査	【悪臭の状況】 事業実施区域から約4kmの範囲	煙突排ガスの排 出に伴う悪臭濃 度(臭気指数)	ブルーム式、ハ フ式 を用いた定量的 な方法	調査地域と同じ	最大着地濃度地点 (風向について は考慮せず、大 気安定度、風速 の条件をもとに 最大着地濃度地 点までの到達距 離を求め、予測 地点とする。)	供用開始後事業 活動が定常状態 に達した時期 なお、必要に応 じて、新焼却炉 試運転期間中の 現焼却炉稼働に よる累積的影響 についても考慮	①環境影響の回避、低減に係る評価現況と 予測結果の対比を行い、実行可能な範囲 内で回避又は低減され、必要に応じその 他の環境の保全についての配慮が適正に 行われるかどうかを評価する方法  ②環境の保全に関する施策との整合性に 係る評価										
					<table border="1"> <tr><th>調査地点</th></tr> <tr><td>現施設</td></tr> <tr><td>事業実施区域敷地境界 (風上・風下)</td></tr> </table>	調査地点	現施設	事業実施区域敷地境界 (風上・風下)							<table border="1"> <tr><th>項目</th><th>評価指標</th></tr> <tr><td>臭気指数</td><td>10以下</td></tr> </table>	項目	評価指標	臭気指数	10以下		
調査地点																					
現施設																					
事業実施区域敷地境界 (風上・風下)																					
項目	評価指標																				
臭気指数	10以下																				

2. 人と自然との豊かな触れ合いを旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素

表 8-2-1 環境影響の総合的な評価

環境要素	影響要因	調査項目	調査期間	調査方法	調査地域	予測・評価項目	予測方法	予測地域	予測地点	予測時期	評価方法										
景観	土地又は工作物の存在及び供用	地形改変後の土地及び工作物の存在	【景観の状況】 主要な視点場の状況 【景観の状況】 晴天日2回 (夏季及び冬季)	【景観の状況】 資料調査及び現地踏査 (目視確認及び写真撮影)	【景観の状況】 (景観) 事業実施区域から最大6kmの範囲 <table border="1" data-bbox="994 472 1359 634"> <thead> <tr> <th colspan="2">調査地点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>近景域</td> <td>山口緑地・山口緑地パークゴルフ場</td> </tr> <tr> <td>中景域</td> <td>札幌あすかぜ高等学校 新川緑地(第一新川橋)</td> </tr> </tbody> </table>	調査地点		近景域	山口緑地・山口緑地パークゴルフ場	中景域	札幌あすかぜ高等学校 新川緑地(第一新川橋)	供用時の施設の存在に伴う主要な景観の改変及び圧迫感の程度	事業計画をもとに、視点場からの景観のフォトモンタージュを作成し、景観の変化を視覚的に予測	調査地域と同じ地域	現地調査と同じ3地点	施設が完成した時期	①環境影響の回避、低減に係る評価現況と予測結果の対比を行い、実行可能な範囲内で回避又は低減され、必要に応じその他の環境の保全についての配慮が適正に行われるかどうかを評価する方法  ②環境の保全に関する施策との整合性に係る評価  <table border="1" data-bbox="2368 625 2783 751"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価指標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主要な景観の改変の程度</td> <td>札幌市景観計画における「市街地の外」の景観形成の考え方</td> </tr> </tbody> </table>	項目	評価指標	主要な景観の改変の程度	札幌市景観計画における「市街地の外」の景観形成の考え方
調査地点																					
近景域	山口緑地・山口緑地パークゴルフ場																				
中景域	札幌あすかぜ高等学校 新川緑地(第一新川橋)																				
項目	評価指標																				
主要な景観の改変の程度	札幌市景観計画における「市街地の外」の景観形成の考え方																				

3. 環境への負荷の回避・低減及び地球環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素

表 8-3-1 環境影響の総合的な評価

環境要素	影響要因	調査項目	調査期間	調査方法	調査地域	予測・評価項目	予測方法	予測地域	予測地点	予測時期	評価方法
廃棄物等	工事の実施	切土工等及び施設の設置 【廃棄物等の状況】 撤去建造物の状況 建設発生土の状況 特別管理廃棄物の状況	【廃棄物等の状況】 — (最新の情報)	【廃棄物等の状況】 既存資料調査	【廃棄物等の状況】 事業実施区域及び市内類似施設	建設工事に伴う副産物の種類、発生量等	工事計画を基に建設副産物の種類ごとの発生量を把握し、処理・処分方法等について整理する方法	事業実施区域	事業実施区域	工事中の全期間	①環境影響の回避、低減に係る評価 廃棄物等の処理・処分方法を示し、事業者として実行可能な範囲内で回避又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正に行われるかどうかを評価する方法  ②環境の保全に関する施策との整合性に係る評価
	土地又は工作物の存在及び供用	【廃棄物等の状況】 現施設から発生する廃棄物の種類、数量、処理・処分の状況	【廃棄物等の状況】 — (最新の情報)	【廃棄物等の状況】 既存資料調査	【廃棄物等の状況】 事業実施区域及び市内類似施設	施設の供用に伴い発生する廃棄物の種類、発生量等	事業計画を基に廃棄物の種類ごとの発生量を把握し、処理・処分方法等について整理する方法	事業実施区域	事業実施区域	供用開始後事業活動が定常状態に達した時期	①環境影響の回避、低減に係る評価 発生する廃棄物等の処理・処分方法を示し、事業者として実行可能な範囲内で回避又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正に行われるかどうかを評価する方法
温室効果ガス	工事の実施	建設機械の稼働 【温室効果ガスの状況】 温室効果ガスの排出量又はエネルギーの使用量に係る原単位の把握、温室効果ガスの排出を回避・低減するための対策又はエネルギーの使用量を低減するための対策の実施状況	【温室効果ガスの状況】 — (最新の情報)	【温室効果ガスの状況】 既存資料調査	【温室効果ガスの状況】 事業実施区域	建設機械の稼働に伴い排出される温室効果ガス(二酸化炭素等)の量	「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル Ver6.0」(令和7年3月)を参考に、事業計画を基にした活動量と温室効果ガスの排出量又はエネルギー使用量の原単位と温暖化係数により排出量又は使用量を予測する方法	事業実施区域	事業実施区域	工事中の全期間	①環境影響の回避、低減に係る評価 現況と予測結果の対比を行い、事業者として実行可能な範囲内で回避又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正に行われるかどうかを評価する方法
		資材及び機械の運搬に用いる車両の運行			【温室効果ガスの状況】 事業実施区域周辺			事業実施区域周辺	事業実施区域		
	施設の稼働	土地又は工作物の存在及び供用			【温室効果ガスの状況】 既存資料調査	【温室効果ガスの状況】 事業実施区域	施設の供用に伴い排出される温室効果ガス(二酸化炭素等)の量		事業実施区域周辺	事業実施区域	

項目	評価指標
建設副産物	第5次札幌市産業廃棄物処理指導計画の目標 「再生利用率の目標値：R12年度81%以上」、 「建設系廃棄物再生利用率：92%以上」